

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175300250		
法人名	有限会社 ケアサポートますむら		
事業所名	グループホーム ファミールみどり		
所在地	網走市緑町1番地10 - 6号		
自己評価作成日	平成22年11月2日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ファミールみどりに入所された方は、日々、健康的に明るく過ごされています。強制された訳ではなく、午前中は、体操、廊下歩行に参加され、何時までも、自分の足で歩きたいと目標を持ち、個々の出来る範囲を自分で決めて頑張っています。又、それらが安全に達成出来る様スタッフは、見守り・励まし良い効果を上げています。入所当時、車イスで来られた、O氏(93歳)は6年目を迎えますが、現在杖歩行ではありますが、積極的に運動に参加されています。又、ファミールみどりは職員や地域のボランティアに積極的に参加することを勧めていて、休みの時に施設訪問をする職員や地域のボランティア活動のリーダーを務めている者も数名います。また認知症サポーター養成講座の講師役だけでなく企画や調整も行っていきます。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
<http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175300250&SCD=320>
 基本情報リンク先URL

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室		
訪問調査日	平成23年2月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1) 施設環境;各居室の自由さ、集う居間のくつろいだ設備、温度・湿度・換気等への配慮、浴室・トイレ等の介護しやすく、身近な配置のよさなど、工夫された設備環境にある。
- 2) 職員の姿勢;明る、活き活きた対応、利用者本位の支援、職員間の連携のよさ、専門性の高さ等が家族から評価され、また全職員が積極的な内外の研修に努めている。
- 3) 家族との連携;話や声を親しく聴いてくれ、家族の不安相談にも応じてくれ、行事・外出など利用者満足を高めている。
- 4) 地域・行政等社会資源との連携;福祉行政や防災など強い連携を保ち地域との安全対応等に努めている。
- 5) 運営推進会議の状況;定期的な運営状況を資料に示して開催、参加関係者の相互理解を促進、ホーム利用者の支援に効果をあげている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回、ミーティングで復唱し、理念の確認をしながら実践しています。	住み慣れた網走の地で、家庭的な雰囲気の下に、その人らしく、ゆったり、楽しく、ゆたかな生活を支えようとの理念を実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会のボランティアさんが定期的に来所してくれたり、行事や、運営推進会議などで町内会の方々に参加されています。	定期的な地域のボランティア・声の図書館等の訪問、地域との行事交流、運営推進会議への住民参加があり、地域の一人としての身近な支援関係づくりに努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ、キャラバンメイトの協力、認知症サポーター養成講座を開いています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様ご家族、ボランティアさん、市の職員が参加され、職員の研修報告やサービス提供の内容を話しホームの取り組みを報告しています。	定期的に会議を開催、行政・包括支援センター、町内会・家族が参加して、運営状況(自衛消防訓練・職員研修・利用者紹介・評価結果等)資料に基づき協議し、意見を運営に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では市の職員が参加され、市からの状況報告を早く頂き、協力関係を築いています。	運営推進会議は担当行政・消防や包括支援センター、町内・家族など効果的な情報交換の場として活かしている。他に、行政関連委員活動での貢献も多い。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者指導の下、研修、ミーティング等で身体拘束をしないケアの実践を確認しています。また、夜間は施錠するが、日中は施錠しないケアを実践しています。	人権擁護や法令遵守の基本姿勢に基づき職員研修を重視して、自由と安らぎある生活の支援に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止の研修等に参加し、ミーティング等で話し合われています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会は開いているが、実際の利用は今までありません。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、グループホームについての説明、倫理要綱、重要事項説明、運営規定、利用契約、同意書の説明をして契約を結んでいます。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議などでご家族の意見、意向を確認し、反映しています。	運営推進会議の家族参加、訪問時の相談対応、月例の家族への通信などで家族の意向聴取に努めて運営に反映している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや個人面談で意見を聞くようにしています。	定例の職員会議、利用者の支援会議で業務上や運営への意見を聴取して運営に反映するほか、個別面談の機会を持っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスのための要件を作成中です。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ほとんどの職員が毎年グループホーム関連の研修に参加し、また認知症実践者研修等の研修にはすでに9名が受講しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	網走市内のグループホームの勉強会を立ち上げ、定期的な研修を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入所前にセンター方式を使いアセスメントしています。本人様、ご家族、関係者機関から情報を頂き、職員間で情報交換をしています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、サービス提供者会議を開催しご家族の意向を確認しています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態の見極めもあるが、まずは本人、ご家族様の望むことを支援していきます。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に出来ることをして頂き本人の必要性を感じてもらっています。職員も利用者様に感謝の気持ちを持ち、接することでお互いの関係を築いています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは良い関係を築けています。遠方のご家族様に対してはホームページ上で日常生活を記載し様子を伝えていきます。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・ある方は、入所8年を過ぎても、以前居住されていた町内会の催し物に参加され、ホームで送迎しています。 ・古い友人や、同級生に、手紙での交流をお勧めし、返信があると皆で見せて頂いています。	個別の馴染み客との交流は少ないが、散歩、外出、買い物、ドライブ等郊外の楽しみ、近隣住民(ボランティア)との交流などの支援の工夫に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク等で利用者様同士交流を持てるように努めているが、それぞれの人格があり、難しい場面もあるが、利用者様の尊厳を尊重する支援に努める様、職員は心掛ける必要があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方が、ご家族様と遊びに來たり電話を頂いたりして継続して交流しています。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に、入所者のお部屋を訪問し、聞くことが可能な方には、ここでの生活や介護員に要望や、望むことは無いかお聞きしています。	個々の情報を理解して支援計画に活かし、職員が共有してきめ細かな支援に当たっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を採用しています。ご家族や利用者本人に話を聞き、その利用者の過去の状況を把握し、介護計画書を作ります。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を採用しています。利用者様の異変がないか観察し、申し送り等を確実にし、利用者様の体調管理を把握しています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	当ホームのスタッフの幅広い、年齢層をいい意味で活用し、多角的(身・心体、食・住)に意見を出し合い密なケアができています。急性期の特変等に関して、介護計画の変更をし、スタッフ間の対応も連携は取れています。	全員が定例会議に課題を持ち寄り、計画・実行・観察経過を話し合っ最 適な支援をするようよう努め、個々の心身の変化に対応した計画と処遇に当たっている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づき、様子を記録し、職員間で情報を共有しています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じ対応をしています。緊急時の通院や自室での法要を行っています。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物や行事等に参加され、充実した日々を過ごして頂けるよう支援しています。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かり付けのある入所者の方については、家族対応をお願いしています。定期通院については、当ホームで対応し、日々のバイタル表を持参し説明しています。特に、精神科の医師とは薬剤の調整に関して密に話し合い対応する	連携病院への受診やかかりつけ医との情報を的確に捉えて対応し、記録・管理して利用者や家族の安心と安全に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問があり、個々の状態について医療相談しています。体調不良時なども相談に乗ってくださり通院を勧めてくれています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者がある時、職員が交代で様子を見に行き早期退院に向け食事介助に行き病院と調整を図っています。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所されている方の今後(重度化・終末期)について、家族の方と話し合いの場は設けています。推進会議の中でも度々話されています。訪問看護、協力医などの意見も家族様に聞いて頂きました。今後もホームとして出来る事、出来ない事を家族様と話合って行きます。	重度化や終末期の対応には段階的対応を予想した家族との話し合いや医療機関との支援協議がのぞまれる。	予期すべき段階とは可能な限り早めに対応すること、と考えますので、さらなる検討を期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、救急救命の研修に参加しています。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行っています。消防訓練は町内会の方も交え一緒に参加してくれており協力体制をとれています。	地域ぐるみの協議を重ねていて、運営推進会議の議題とするなど、地域との連携に努めて消防・防災訓練をしている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者の方のプライドに配慮し、洋服の着間違えの多い方に対して、スタッフが早く気づき、他入所者に解らないよう更衣して頂きます。	職員は利用者個々の誇りや対面を気遣い、損ねることのないよう、着間違えなどの事例に対応できるよう共通理解に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望を聞き、自己決定をなるべく託すようにしています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様はそれぞれの時間を過ごしており、その人らしい生活が出来るように日々を過ごして頂けるよう支援しています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定で身だしなみを整え、お化粧をされている方もいます。自己決定できない方はご家族の方が洋服を買ってきてくれています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、調理、配膳、茶碗拭き等利用者様にもできることを手伝って頂くよう支援しています。	利用者の嗜好を確かめ、好みや活動力に応じた調理・配膳・後片付けなど、参加して楽しい食事の出来るよう配慮した支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー設定をして体重増加を管理しています。水分量も設定しており食事量、水分量をセンター方式のシートに記入しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがい、歯磨き、入床前の義歯洗浄を行っています。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で管理できる方もいますが、自力歩行できない方は手引き歩行で排泄を行っています。	自立できるよう支援しているが、心身の状態に合せた排泄支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	シートに記入し管理しています。水分補給を勧めたり、運動したりしていますが場合によっては下剤の調整をしています。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個人対応の入浴となりました。曜日、時間帯が決まりゆったりと入浴をされています。	浴室の改造で個人対応の入浴支援が可能になり、個々の希望に応じた入浴を勧めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ自分で休息を取られています。個々に沿った支援はできています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その人の疾病と薬の関係を理解し、また誤薬や飲み忘れが無いよう確認をしています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の趣味や好きなことを十分把握しレクリエーション等を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物することで気分転換を図っていますが、もっと個別対応する必要があり、以前より外出する機会がなくなってきているので改善の余地があります。	居間から中庭に出られる環境や散歩・買い物・ドライブなど気分転換への配慮など工夫している。	改善の余地ありと指摘ですので、職員ともに建物内活動の閉塞感に留意して、外気の変化を楽しめるような検討を期待します。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方は自分で管理し買い物をする方もいれば、お金を渡し職員に買い物を頼む方もいます。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話で話されたり、自分で手紙を書き、近くのポストと一緒に投函に行ったりしています。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節感あふれる飾り付けをして四季を感じて頂いています。温度、湿度により空気の入替えや加湿器を使い調整をしています。冬期間は各居室に湿度用のバスタオルを使用しています。	居間中心の和やかさ、季節感などの親しみある共用空間、加湿器などの換気の配慮、身近な居室とのトイレ・浴室との利用空間など居心地よい環境が用意されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様は部屋に行かれたり、喫茶店をしたり廊下の畳ベンチにて寛がれたりしての方もいますがまだ改善する必要があります。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が家で使われていた馴染みの物を持ってきて頂き、写真や飾り物を貼り居心地の良い空間作りをしています。	長期間利用者が多く、なじみや家族・近隣の友人等に支えられた居室作りができていて、安心感のある居室環境ができています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫出来ています。夜間は声掛け、見守りで支援しています。		